

2022 年度シラバス

高等学校 1 年



駒沢学園女子中学・高等学校

仏教（2022年度）

単位数	1単位
担当	中村
教科書	『駒沢学園の仏教』 駒沢学園刊
対象生徒	高校1年

1. 授業の目標

一年間の駒沢学園の仏教行事と、お唱え（三帰礼文、四弘誓願文、五観の偈）を理解させると同時に、釈尊や道元禅師の一生を学ぶことで、生き死について考えを深める。
また「仏道をなろうというは自己をなろうなり」（『正法眼蔵』）という教えをもとに、仏教の時間をとおして、自分とは何か、「今」をどう生きるのかを、一人ひとりが自分事として、見つめなおす時間にしていく。

2. 副教材・参考書

- ・『駒沢学園の仏教』
- ・DVD・プリントなど
- ・授業において、坐禅・写経・写仏の体験実習を行う。

3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

創立95周年の歴史を持つ、駒沢学園の仏教の原点に立ち戻り、建学の精神を重視する学習を目標とする。本学園の禅を基盤とする建学の精神や日常の学校活動・年間仏教行事などの理念や目的を明らかにし、坐禅実習を通して生徒の身心の育成にあたる。

4. 宿題・課題・再試について

- ・授業時に行う課題提出状況によりパフォーマンス評価の加点対象となる。
- ・定期試験の結果が30点未満の場合は課題を行う。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点（70%）、提出物（30%）により評価をする。
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	基本問題（定期試験）	応用問題（定期試験）	パフォーマンス（提出物）
A	三帰礼文・四弘誓願文・五観の偈や仏教行事に関して、期末試験で60%以上の得点が取れる。坐禅の作法や授業で実施する意味を考え、それを体現できるようになる。	下位の2つ視点から、自分の意見に対する批判を受け止め、他者の意見も取り入れて、考察を深めた内容になり、それを論理的に説明できるようになる。	授業に意欲的に参加している。課題もしっかりと取り組んでいる。
B	三帰礼文・四弘誓願文・五観の偈や仏教行事に関して、期末試験で40～60%の得点を取れるようになる。坐禅を集中してできるようになる。	1. 他者の意見を聞き（読み）、その意見について触れることができるようになる。 2. 自分の意見に対する批判も考え、それに答えることができるようになる	多少遅れることもあるが、課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	三帰礼文・四弘誓願文・五観の偈のおよその意味を理解し、唱えることができるようになる。仏教行事の意味や意義を理解する。坐禅ができるようになる。	学習内容に関連する仏教用語や日常生活について、与えられたキーワードを用いて、理由・根拠・結果・感想などを明確に表現することができる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

- ・授業計画は予定であり、授業が早く進む場合がある。早く終わった場合は既習範囲の復習を行う。

授業計画		
学期	試験	授業内容(教材)
第一学期	期末	建学の精神 「正念」と「行学一如」 花まつり 人間の生命の誕生、命の大切さ、平等思想について
		坐禅実習 坐禅の意義、仕方について
		三帰礼文 人間の正しい生活の心構えについて
		四弘誓願文 智慧と慈悲の関係、四苦八苦について
第二学期	期末	永平寺研修 永平寺や道元禅師について
		追善記念日 「千の風になって」から追善供養の意義について考える。
		五観の偈 恩について、六道輪廻について 絵本『いのちをいただく』を読み、 普段何気なく食している食べ物にも「命」の存在があったということに思いを巡らせる。そして「いただきます」の本来の意味を考えさせ、感謝の気持ちを抱くことやいのちの大切さを知る。
		写経・写仏 仏教文化に親しむ
		摂心会と成道会 塚越勇人『命の授業』から、日常生活の中において自分自身を見つめ直し、思いやりや生かされていることの意味を考える。(無財の七施)
第三学期	学年末	誕生記念日 道元禅師、学園の誕生にちなみ、新しい生命の誕生、そして大切さを学ぶ。
		涅槃会と針供養 釈尊の涅槃に基づき、命の大切さ、死、そして人間としての生き方について考える。 (自灯明・法灯明)
		山上忌

現代の国語 (2022 年度)

単位数	2 単位
担当	天野、櫻田、岩本
教科書	現代の国語(大修館書店)
対象生徒	高校 1 年

1. 授業の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりするちからを伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2. 副教材・参考書

トータルサポート新国語便覧 (大修館書店)
セレクト漢字検定 5 級～2 級漢字トレーニング (いいずな書店)

3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・授業内容を毎時間しっかりとノートにまとめる。
- ・グループ学習・音読・発表などに前向きに取り組み、能力を高める。
- ・提出物は完成した状態で、期限を守って必ず提出する。

4. 宿題・課題・再試について

- ・教材に応じて課題を出す。
- ・漢字検定合格を目標にして、漢字テストを実施し、定期試験にも出題する。
- ・定期試験の得点が 30 点未満のものを対象として、再試または課題を課して合格できるまで行う。

5. 評価の基準について

定期試験 (80%)、パフォーマンス評価 (20%) により評価をする。
パフォーマンスの評価項目として、
「話すこと・聞くこと」(発表・スピーチ・プレゼンテーション・討論) 10%
「書くこと」(意見文・本の紹介文・通信文・企画書・レポート) 10%
(※漢字検定取得者には加点をする。)

各単元に応じた内容で、以下の表のように観点別評価をつける。

	基本問題(定期試験)	応用問題(定期試験)	パフォーマンス(提出物・小テスト等)
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

- ・授業計画は予定であり、変更することがある。

授業計画		
学期	試験	授業内容（教材）
一学期	期末	2 要点をつかむ 『水の東西』 山崎正和 3 的確に伝える 『設計図を最初に渡せ！』 藤沢晃治 『伝わるように話す』・『わかりやすく書く』 『目的や場面に応じて的確にわかりやすく伝える』 5 論理をとらえる 『動物平衡としての生物多様性』 福岡伸一 漢字テスト
二学期	期末	6 魅力的に伝える 『「伝える」先にあるもの』 ジェーン・スー 『工夫して話』『魅力的な紹介文を書く』 7 資料を駆使する 『「安くておいしい国」の限界』 小熊英二 『インターネット時代の音楽産業』 吉見俊哉 「統計資料をもとに意見を書く」 漢字テスト
三学期	学年末	12 考えを発信する。 「主体的に読む」 『白』 原研哉 「結論を出すために話し合う」「レポートを書く」 漢字テスト

言語文化(2022年度)

単位数	2単位
担当	天野、櫻田、岩本
教科書	言語文化(大修館書店)
対象生徒	高校1年

1. 授業の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりするちからを伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2. 副教材・参考書

トータルサポート新国語便覧(大修館書店)
 基礎から学ぶ解析古典文法三訂版(桐原書店)
 基礎から学ぶ解析古典文法三訂版演習ノート(桐原書店)
 改訂版スタディーシーズン国語の学習・現代文・古典(尚文書店)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

授業内容を毎時間しっかりとノートにまとめる。
 グループ学習・音読・発表などに前向きに取り組み、能力を高める。
 提出物は完成した状態で、期限を守って必ず提出する。

4. 宿題・課題・再試について

教材に応じて課題を出す。
 漢字検定合格を目標にして、漢字テストを実施し、定期試験にも出題する。
 定期試験の得点が30点未満のものを対象として、再試または課題を課して合格できるまで行う。
 読書習慣をつけるために、読書ノートを作成し、年4回の交換会を実施する。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点80%(基本問題50%応用問題30%)、
 - ・P評価(20%)音読・各作品の課題・学力テスト・小テスト・授業ノート・読書ノート・発表・授業の取り組みによって観点別評価をつける。
- ※漢字検定取得者には加点をする。(言語文化・現代の国語)

	基本問題(定期試験)	応用問題(定期試験)	パフォーマンス(提出物・小テスト等)
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

授業計画は予定であり、変更することがある。

授業計画（現代文編）		
学期	試験	授業内容（教材）
一学期	中間	現代文 2 言葉の紡ぐ世界 『羅生門』芥川龍之介（1）
	期末	現代文 2 言葉の紡ぐ世界 『羅生門』芥川龍之介（2）と『今昔物語集』との読み比べ
二学期	中間	現代文 5 日本と世界 『サーカス/Circus』中原中也 現代文 6 文学と人生 『わたしが一番きれいだったとき』
	期末	現代文 3 伝統と発展 短歌 15首、俳句 12句 現代文 4 表現の多様性 『夢十夜』夏目漱石
三学期	学年末	現代文 6 文学と人生 『城の崎にて』志賀直哉

授業計画（古文・漢文編）		
学期	試験	授業内容（教材）
一学期	中間	古文 1 古文に親しむ 『宇治拾遺物語』 古典の言葉 漢文 1 漢文に親しむ 訓読のきまり①「返り点の種類と用法」 『論語』
	期末	古文 2 自然へのまなざし 『徒然草』 兼好法師 訓読のきまり②「再読文字の種類と用法」 訓読のきまり③「主な助字の種類と用法」 言語文化の窓①「漢文から生まれた言葉」 前半
二学期	中間	古文 3 想いを表す言葉（1） 『万葉集・古今和歌集・新古今和歌集』 漢文 2 現代に生きる言葉 『完璧』 曾先史 言語文化の窓①「漢文から生まれた言葉」 後半
	期末	古文 4 人との交わり 『伊勢物語・芥川』 漢文 3 想いを表す言葉（2） 漢詩
三学期	学年末	古文 5 語り継がれる歴史 平家物語—『木曾の最期』、『吾妻鏡』 漢文 4 文学と社会 『雑説』 韓愈 言語文化の窓③

歴史総合(2022年度)

単位数	2単位
担当	上戸、深谷
教科書	新選歴史総合(東京書籍)
対象生徒	高校1年

1. 授業の目標

現代の事象を理解するために歴史を学び、日々の生活の中でも応用できるような知識と教養を養う。各学期いくつかのテーマを設定し、現代社会の諸問題、日本と世界の関りについて考察していけるようにする。

〔中期目標〕教科書の内容を理解したうえで、資料の読み取りが出来るようにする。

〔長期目標〕現代世界の諸問題に対して、ニュース等を通して自分の意見を論理的に考察する力を養う。

2. 副教材・参考書

なし

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

日本と世界のことを同時に学んでいく教科となります。最初は慣れないかもしれませんが、積極的にニュースや新聞、沢山の情報に触れて、私たちの生活と関連した歴史を学んでいきましょう。

4. 宿題・課題・再試について

- ・学習状況に応じた宿題・課題を随時課す。
- ・合格点に到達しない場合、再試を行うこともある。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点(80%)、課題・発表(10%)、小テスト(10%)により評価をする。
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	小テスト、用語問題(定期試験)	課題への取り組み、文章問題(定期試験)	課題の提出状況
A	80%~100%	80%~100%	80%~100%
B	30%~80%未満	30%~80%未満	30%~80%未満
C	0%~30%未満	0%~30%未満	0%~30%未満
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

授業計画		
学期	試験	授業内容(教材)
一学期	中間	1. 歴史から読み解く現代 現在行われている、ウクライナとロシアの戦争について考察する。 ヨーロッパ地理からそれぞれの国についての理解を進め、各国の歴史から現代に繋がる諸問題を理解する。教科書の該当箇所を適宜使用する。地図やその他の理解促進のための資料は提示。ロイロノートで意見や調べたこと等提出を行う。 ※ヨーロッパ地理が要となるので、地理的内容の小テストを中心に実施。教科書の本文より、重要な用語等を用いて小テストを行う。
	期末	
二学期	中間	2. 世界と日本の近代化 現代社会が成立するうえで、欠かすことのできない産業・経済等から日本と世界の繋がりを考察する。教科書の該当箇所を適宜使用する。地図やその他の理解促進のための資料は提示。ロイロノートで意見や調べたこと等提出を行う。 それぞれの国の立場や宗教等、文化の違いを理解できるようにする。 ※教科書の本文より、重要な用語や地図を用いて小テストを行う。
	期末	
三学期	学年末	3. アジアと日本の関わり 日本が位置するアジアにおいて、どのように今の関係を築いてきたのかを考察する。各国との関係性はこれまでの歴史が大きく関わっていることを理解する。 教科書の該当箇所を適宜使用する。地図やその他の理解促進のための資料は提示。ロイロノートで意見や調べたこと等提出を行う。 ※教科書の本文より、重要な用語や地図を用いて小テストを行う。

数学 I (2022 年度)

単位数	3 単位
担当	生嶋、小西、野寺、蓑島
教科書	新編数学 I (数研出版)
対象生徒	高校 1 年

1. 授業の目標

数と式、図形と計量、2 次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2. 副教材・参考書

Study-Up ノート数学 I + A (数研出版)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・事前に教科書に目を通し、例題を解くなど予習をしてから授業に参加することが望ましい。
- ・授業が終わった内容は、Study-Up ノート、宿題プリントで復習する。疑問点は質問し、放置しない。
- ・試験前に放課後セミナーを実施する。試験の最終確認に活用すること。

4. 宿題・課題・再試について

- ・Study-Up ノート、宿題プリントを毎回の宿題とする。提出状況をパフォーマンス評価の対象とする。
- ・上記以外に必要なに応じてプリントを配布する場合がある。
- ・定期試験の結果が 30 点未満の場合は再試を受験しなければならない。合格点は 50 点以上とする。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点(基本問題 50% 応用問題 30%)、提出物等(20%)により評価をする。
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	基本問題(定期試験)	応用問題(定期試験)	パフォーマンス(提出物・小テスト等)
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

- ・授業計画は予定であり、授業が早く進む場合がある。早く終わった場合は既習範囲の復習を行う。

授業計画		
学期	試験	授業内容 (教材)
一学期	中間	第 1 章 式と計算 ・式の計算(多項式の加法と減法、多項式の乗法、因数分解) ・実数(実数、根号を含む式の計算)
	期末	・1 次不等式 第 2 章 集合と命題(命題と条件、命題とその逆・裏・対偶、命題と証明) ※集合は数 A で
二学期	中間	第 3 章 2 次関数 ・2 次関数とグラフ(関数とグラフ、2 次関数のグラフ) ・2 次関数の値の変化(2 次関数の最大・最小、2 次関数の決定)
	期末	・2 次方程式と 2 次不等式(2 次方程式、2 次関数のグラフと x 軸の位置関係、2 次不等式) 第 4 章 図形と計量 ・三角比(三角比)
三学期	学年末	・三角比(三角比の相互関係、三角比の拡張) ・三角形への応用(正弦定理、余弦定理、正弦定理と余弦定理の応用、三角形の面積、空間図形への応用) 第 5 章 データの分析(データの整理、データの代表地、データの散らばりと四分位数、分散と標準偏差、2 つの変量の間関係、仮説検定の考え方)

数学 A (2022 年度)

単位数	2 単位
担当	生嶋、萩原、野寺、山口、蓑島
教科書	新編数学 A (数研出版)
対象生徒	高校 1 年

1. 授業の目標

図形の性質、場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2. 副教材・参考書

Study-Up ノート数学 I + A (数研出版)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・事前に教科書に目を通し、例題を解くなど予習をしてから授業に参加することが望ましい。
- ・授業が終わった内容は、Study-Up ノート、宿題プリントで復習する。疑問点は質問し、放置しない。
- ・試験前に放課後セミナーを実施する。試験の最終確認に活用すること。

4. 宿題・課題・再試について

- ・Study-Up ノート、宿題プリントを毎回の宿題とする。提出状況をパフォーマンス評価の対象とする。
- ・上記以外に必要なに応じてプリントを配布する場合がある。
- ・定期試験の結果が 30 点未満の場合は再試を受験しなければならない。再試合格点は 50 点以上とする。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点(基本問題 50% 応用問題 30%)、提出物等(20%)により評価をする。
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	基本問題(定期試験)	応用問題(定期試験)	パフォーマンス(提出物・小テスト等)
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

- ・授業計画は予定であり、授業が早く進む場合がある。早く終わった場合は既習範囲の復習を行う。

授業計画		
学期	試験	授業内容(教材)
一学期	中間	準備 集合 ※数学 I 第 2 章「集合」は数学 A の授業内で実施する。 第 1 章 場合の数と確率 ・場合の数(集合と要素の個数、場合の数)
	期末	・場合の数(順列、組合せ)
二学期	中間	・確率(事象と確率、確率の基本性質、独立な試行と確率)
	期末	・確率(条件付き確率、期待値) 第 2 章 図形の性質 ・平面図形(三角形と辺の比)
三学期	学年末	・平面図形(三角形の外心・内心・重心、チェバの定理・メネラウスの定理、円に内接する四角形、円と直線、2つの円、作図) ・空間図形(直線と平面、空間図形と多面体) 第 3 章 数学と人間の活動 (ユークリッドの互除法、1次不定方程式、記数法)

化学基礎(2022年度)

単位数	2単位
担当	谷口、稲津
教科書	新編化学基礎(東京書籍)
対象生徒	高校1年

1. 授業の目標

化学基礎の学習を通して、自分達の周囲にある様々な物質や現象に対して化学的な視点を獲得させるとともに、地球規模での環境問題等について持続可能な開発目標(SDGs)を化学的な視点で考えていく態度を養う。なお、これらの視点・態度は、実験・観察において、仮説・計画・分析・検証・発表などの活動を取り入れることでも養っていくことを目指す。また、ICT機器を活用し、生徒-教員間、生徒-生徒間の双方向型の学習を促進することで、主体的・対話的で深い学びの実現を目標とする。

2. 副教材・参考書

ニューサポート 新編 化学基礎(東京書籍)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

化学では、身の回りの物質が起こす現象を原子・分子の視点から理解していくために、その性質や原理などを学習していく教科である。そのためには、新しく学習した言葉の一つ一つの意味を単に暗記するだけではなく自分の言葉としてかみ砕き説明できるようになることを大切にするとともに、既習の言葉や概念との関連性を考えることが必要である。

授業内では一方向の学習だけではなく、生徒自らが論点をまとめ、発言・発表・論述などができるように取り計らう。また、授業・復習のどちらにおいても、疑問点・問題点を見出すような意識を持てるように促すことも重要である。

4. 宿題・課題・再試について

定期的に小テストまたは課題演習を行い、単元ごとに学習状況を把握できるように努める。また、可能であれば各学期で実験等を行い、その内容をレポートにまとめさせ、それを宿題・課題とする。

5. 評価の基準について

定期試験の得点、小テストや実験レポート等のパフォーマンスにより、以下の表のように観点別評価をつける。

	定期試験 (80%)		パフォーマンス (20%)
A	物質に関する概念や原理・法則を理解し、現代の生活を支える化学の役割や人間生活との関わりについて考察できる。	身近な物質とその変化の中から、問題点を指摘し、観察・実験をもとに解決できる。	観察や実験を通して、単に指示された通りに行動するのではなく、自らが目的や見通しをもって、主体的に物事に取り組むことができる。
B	物質に関する概念や原理・法則を理解し、物質が日常の様々な場面で関わっていることを理解できる。	身近な物質とその変化の中から、問題点を見つけ出し、仮説をたてることができる。	実験や観察を通して、指示された操作を的確に行うことができる。
C	物質に関する概念や原理・法則を理解している。	身近な物質とその変化について、問題点を見つけ出すことができる。	実験や観察に参加できている。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

※ 定期試験とパフォーマンスの割合は、変更の可能性がある

6. その他 授業計画は予定であり、多少前後する可能性がある。

授業計画		
学期	試験	授業内容 (教材)
一学期	中間	1 編 1 章 物質の成分と構成元素 ・純物質と混合物 ・混合物の分離と精製 ・単体と化合物 ・元素の確認・同物質の三態 2 章 原子の構造と元素の周期表 ・原子の構造 ・電子配置 ・元素の周期表
	期末	2 章 化学結合 ・イオンとイオン結合 ・分子と共有結合 ・金属と金属結合 ・化学結合と物質の分類
二学期	中間	2 編 1 章 物質質量と化学反応式 ・原子量・分子量・式量 ・物質質量 ・化学反応式とその量的関係 ・溶液の濃度
	期末	2 章 酸と塩基 ・酸と塩基の定義 ・水素イオン濃度と pH ・中和反応と塩 ・中和滴定
三学期	学年末	3 章 酸化還元反応 ・酸化と還元の定義 ・酸化剤と還元剤 ・酸化還元の反応式 ・金属の酸化還元反応 ・酸化還元反応の応用

生物基礎(2022年度)

単位数	2単位
担当	古屋、倉岡
教科書	高校生物基礎(実教出版)
対象生徒	高校1年生

1. 授業の目標

日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てる。また、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

2. 副教材・参考書

アクセスノート生物基礎新課程版(実教出版)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・授業中に配布する授業プリントには、メモを取りながら取り組むことが望ましい。
- ・各単元の授業が終了したら、問題集で対応する問題を解いて復習する。分からないところは質問する。
- ・試験前に放課後セミナーを実施する場合がある。試験の最終確認に活用すること。

4. 宿題・課題・再試について

- ・調べ学習およびプレゼンテーション、実験レポートなどの課題を課す。取り組み状況によりパフォーマンス評価の加点対象となる。
- ・定期試験毎に授業ノートと問題集の提出を求める。提出状況によりパフォーマンス評価の加点対象となる。
- ・定期試験の結果が30点未満の場合は再試を受験または課題を課す。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点(80%)、パフォーマンス(20%)により評価をする。
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	定期試験(基本問題)	定期試験(応用問題)	パフォーマンス(提出物・発表等)
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

- ・授業計画は予定であり、状況に応じて授業の進度の前後や変更をする場合がある。

授業計画		
学期	試験	授業内容（教材）
一学期	中間	第1章 生物の特徴 1節 生物の多様性と共通性 1. 生物の多様性・共通性 2. 生物の共通性と進化 3. 細胞 2節 生物とエネルギー 1. 代謝とエネルギー
	期末	第1章 生物の特徴 2節 生物とエネルギー 2. 酸素と代謝 3. 光合成 4. 呼吸 5. エネルギーの流れ 第2章 遺伝子とその働き 1節 遺伝情報とDNA 1. 遺伝子の本体 2. DNAの複製と分配
二学期	中間	第2章 遺伝子とその働き 2節 遺伝情報の分配 1. 遺伝子とタンパク質 2. タンパク質の合成 3. 遺伝子の発現 4. ゲノムと遺伝子 第3章 ヒトのからだの調節 1節 体内環境 1. 体内環境と恒常性 2. 体液とその働き 3. 体温の調節
	期末	第3章 生物の体内環境とその維持 2節 体内環境の維持のしくみ 1. 情報の伝達 2. 自律神経系による情報伝達 3. 内分泌系による調節 4. 内分泌系と自律神経系による調節 3節 免疫 1. 生体防御と免疫 2. 自然免疫のしくみ 3. 獲得免疫のしくみ 4. 免疫と疾患
三学期	学年末	第4章 生物の多様性と生態系 1節 植生と遷移 1. 生態系 2. 植生とその変化 3. 遷移のしくみ 2節 気候とバイオーム 1. 世界のバイオームとその分布 2. 日本のバイオーム 3節 生態系と物質循環 1. 生物の多様性 4節 生態系バランスと保全 1. 生態系のバランス 2. 人間生活による環境への影響 3. 生態系の保全の重要性

体育 (2022 年度)

単位数	2 単位
担当	二見
教科書	
対象生徒	高校 1 年

1. 授業の目標

運動の楽しさや喜びを味わい、基本的な技能を身に着ける。
 運動を通して体力の向上を図る。
 競走や協同の経験を通して公正さ・協力性・自分の役割を知ることが育てる。
 生涯を通して健康の楽しさを学ぶ。

2. 副教材・参考書

アクティブスポーツ (大修館書店)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

ケガのないように準備運動をしっかりと行う。
 説明をしっかりと聞き、安全を第一に考える。

4. 宿題・課題・再試について

各運動における競技施設やルールについて調べ学習を行う。

5. 評価の基準について

- ・実技試験 1 の得点 (40%)、実技試験 2 の得点 (40%)、提出物 (20%) により評価をする。
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	実技試験 1	実技試験 2	パフォーマンス (提出物・小テスト等)
A	80%～100%	80%～100%	80%～100%
B	30%～80%未満	30%～80%未満	30%～80%未満
C	0%～30%未満	0%～30%未満	0%～30%未満
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

- ・授業計画は予定であり、授業が早く進む場合がある。早く終わった場合は既習範囲の復習を行う。

授業計画		
学期	種目	授業内容
一学期	スポーツテスト 駒女体操 体育祭種目練習	50m 走、立幅跳、ハンドボール投げ 駒女体操テスト 各競技種目練習
	水泳	クロール、平泳ぎの 25m タイム取り
二学期	ソフトボール	キャッチボール、捕球、打撃など 実技テスト ゲーム
	持久走	900m タイム (3 周) 1500m タイム (5 周)
三学期	バスケットボール	ボールハンドリング パス、ドリブル、ドリブルシュート 実技テスト ゲーム・審判法

保健(2022年度)

単位数	1単位
担当	鳥海
教科書	現代保健体育(大修館書店)
対象生徒	高校1年

1. 授業の目標

個人および社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を具体的かつ行動的に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

2. 副教材・参考書

教授用参考資料

3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

単に1教科だけでなく関連の教科や、学校行事、部活動などとの関連を考慮し、本教科の特性を生かした積極的な学校生活を送れるようにする。

日常生活で健康問題に遭遇した場合に活用できるように自らの心身への興味・関心を促す。

4. 宿題・課題・再試について

特になし

5. 評価の基準について

定期試験(80%)、パフォーマンス調べ学習(10%)、ノート提出(10%)

	定期試験	パフォーマンス・調べ学習	ノート提出
A	80%~100%	10%	10%
B	30%~80%未満	5%	0%
C	0%~30%未満	0%	0%
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

授業計画		
学期	試験	授業内容(教材)
一学期	期末	私たちの健康のすがた 健康のとらえ方 健康と意思決定・行動選択 健康に関する環境づくり 生活習慣病とその予防 食事と健康
二学期	期末	運動と健康 薬物乱用と健康 休養・睡眠と健康 喫煙と健康 飲酒と健康 現代の感染症 感染症の予防
三学期	学年末	性感染症・エイズとその予防 欲求と適応機制 心身の相関とストレス ストレスの対処法 心の健康と自己実現

音楽 I (2022 年度)

単位数	2 単位
担当	平田
教科書	高校生の音楽(教育芸術社)
対象生徒	高校 1 年音楽選択者

1. 授業の目標

- (1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽を愛好する心情を育てる。
- (2) 音楽に対する感性をより豊かにし、表現の技能を伸長し、創造的に表現する能力を高める。
- (3) 世界の多様な音楽に対する総合的な理解を深め、幅広く鑑賞する能力を高める。

2. 副教材・参考書

リコーダーライブラリー

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・歌唱や器楽の授業ではクラスメイトと協力して授業を進めることがあるので協調性を
- ・授業で行った基本的な音楽の知識は授業内小テストでこまめな確認を行う。小テストの前にはプリント学習などを配布するので内容理解に努める。
- ・鑑賞などでは自分の言葉で詳しく書くことを大切にす。

4. 宿題・課題・再試について

提出物は基本的にロイロノートへの提出とする。

授業内小テストも定期試験と同様に点数が低い場合は再試を行う場合がある。

5. 評価の基準について

- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	筆記試験 実技試験 (基礎的な技能)	鑑賞授業 実技試験 (応用・表現等)	提出物・課題等
A	80%~100%	80%~100%	80%~100%
B	30%~80%未満	30%~80%未満	30%~80%未満
C	0%~30%未満	0%~30%未満	0%~30%未満
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

- ・授業計画は予定であり、授業が早く進む場合がある。早く終わった場合は既習範囲の復習を行う。

授業計画	
学期	授業内容 (教材)
一学期	導入 楽典 音楽の基礎知識 (音名 音価 音部記号) 歌唱 ひまわりの約束 (響きづくりのポイント 歌詞に込められた曲想を生かす) 器楽 リコーダー (楽器の歴史 奏法について カノン バロックハウダウン) 鑑賞 ラヴェル ショパン (管弦楽を聴く ピアニズムを学ぶ)
二学期	歌唱 女声二部合唱 (二部合唱の響き 作品の背景) 器楽 リズム (Clapping Quartet No1) 鑑賞 ベートーヴェン (交響曲 協奏曲 ピアノソナタ 弦楽四重奏) 創作 リズム創作 (Garage Band 利用) 楽典 拍子 楽語
三学期	歌唱 イタリア歌曲 (言葉の響き 旋律の美しさ Caro mio ben) 器楽 リコーダー (サミング 高音域のポイント ていんさぐぬ花 メヌエット) 鑑賞 ミュージカル 作曲家の生涯 (West Side Story) 創作 メロディ創作 (Garage Band)

美術 I (2022 年度)

単位数	2 単位
担当	高橋
教科書	高校生の美術 1(日本文教出版)
対象生徒	高校 1 年美術選択者

1. 授業の目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする
- (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。数と式、図形と計量、

2. 副教材・参考書

なし

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・授業内で疑問を解決し、計画的に作品を完成できるような姿勢で参加することが望ましい。
- ・授業を欠席した場合は提出期限前までに放課後自主的に不足分を補う事が望ましい。
- ・課題制作の上で試行錯誤しながらも粘り強くチャレンジする姿勢が望ましい。
- ・課題は期限までに完成させ必ず提出する。

4. 宿題・課題・再試について

- ・授業内で課題が完成されない場合は宿題となる。

5. 評価の基準について

- ・各学期の課題（提出物 100%）により評価をする。
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	課題（作品）	課題（作品）	学習状況の把握・作品に対する取り組み方
A	80%～100%	80%～100%	80%～100%
B	30%～80%未満	30%～80%未満	30%～80%未満
C	0%～30%未満	0%～30%未満	0%～30%未満
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

授業計画は予定であり、授業の進捗状況により課題の増減がある場合もある。

リモート授業等で授業内容の変更あり

授業計画	
学期	授業内容（教材）
一学期	2点透視を使った平面構成 静物画（油彩）
二学期	抽象画（油彩） 図形をモチーフにした平面構成 コマ撮りアニメーション
三学期	静物画（油彩） 顔のイラストレーション

(夏休みの課題…顔のイラストレーションの一部・色の学習)

書道 I (2022 年度)

単位数	1 単位
担当	酒井
教科書	書道 I (教育図書)
対象生徒	高校 1 年書道選択者

1. 授業の目標

芸術科書道という分野を理解し、臨書力を身につける。
 古典臨書を通じて、表現の基礎を学ぶ。
 用具・用材、執筆法、用筆法を理解した上で課題に取り組む。

2. 副教材・参考書

半切・印材・硬毛検定過去問

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

2 時間の時間配分を考え、できるだけ集中して練習できるようにする。
 用具の取り扱いに十分注意する。

4. 宿題・課題・再試について

基本的には 4 時間に 1 度、作品を提出する。

5. 評価の基準について

- ・作品制作の得点 (80%)、ノート (10%)、発表など (10%)
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	パフォーマンス (ノート)	パフォーマンス (作品制作)	パフォーマンス (発表など)
A	80%~100%	80%~100%	80%~100%
B	30%~80%未満	30%~80%未満	30%~80%未満
C	0%~30%未満	0%~30%未満	0%~30%未満
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

授業計画は予定であり、授業が早く進む場合がある。

授業計画		
学期	教科書ページ	授業内容 (教材)
一学期	口絵～P10 P14～22 P24 P62～63 P64～67 P75～84	0. 曹洞宗書道展の課題 半紙に 4 字を書く 0.5 書へのいざない 書写から書道へ 用具・用材/姿勢・執筆法/書体の変遷/書の古典 1. 漢字の書の世界 漢字の書の学習/楷書の古典 孔子廟堂碑/九成宮醴泉銘/雁塔聖教序 半切作品 〈歴史の扉〉世界に開かれた帝国・唐
二学期	P82～86 P80 P105	篆書に親しむ 泰山刻石 〈表現の窓〉篆刻・印を刻る 2. 仮名の書の世界 仮名の成立/仮名の書の学習/仮名の書の古典 いろは歌
三学期	P82～86 P80 P105	連綿/変体仮名 蓬萊切 3. 漢字仮名交じりの書の世界 漢字仮名交じりの書の変遷/漢字仮名交じりの書の学習 〈表現の窓〉古典に表現を学ぶ

英語コミュニケーション I (2022 年度)

単位数	3 単位
担当	本間、鈴木、斉藤、須藤、山本、柳澤
教科書	Landmark Fit English Com. I (啓林館)
対象生徒	高校 1 年

1. 授業の目標

- ・外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれら結びつけた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。
- ・目的や場面、状況等に応じて外国語でコミュニケーションを図る力を着実に育成 (5 領域)
「聞くこと」「読むこと」「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」「書くこと」の力をバランスよく育成する。

2. 副教材・参考書

Landmark Fit English Com. I サブノート (旧予習・完成ノートが改訂されたもの) (啓林館)
英語 4 技能型テストへのアプローチ⑩ (数研出版)
総合英語 FACTBOOK (桐原書店)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・事前に教科書にざっと目を通し、何が書かれているのか、トピックの推測をすることが望ましい。
- ・授業が終わった内容は、サブノート、プリント類で復習する。
- ・新出語の発音練習や教科書音読の際は間違いを恐れずに声を出して積極的に参加する。
- ・週 1 回実施される単語の小テストは事前に自分で十分に学習してから受験をする。

4. 宿題・課題・再試について

- ・事前に教科書にざっと目を通し、何が書かれているのか、トピックの推測をすることが望ましい。
- ・授業が終わった内容は、サブノート、プリント類で復習する。
- ・新出語の発音練習や教科書音読の際は間違いを恐れずに声を出して積極的に参加する。
- ・週 1 回実施される単語の小テストは事前に自分で十分に学習してから受験をする。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点 (基本問題 60% 応用問題 20%)、提出物を含むパフォーマンス評価 (20%) により評価をする。
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	基本問題 (定期試験)	応用問題 (定期試験)	パフォーマンス (提出物・小テスト等)
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

- ・授業計画は予定である。適宜、既習範囲の復習は内容が変わる場合がある。

授業計画		
学期	試験	授業内容 (教材)
一学期	中間	自己紹介、Lesson 2 Curry around the World / 4 技能テスト① Test 1 ・ワークシートを用いた速読及び音読練習・ディクテーション、リプロダクション、意見交換及び発表
	期末	Lesson 4 Eco-Tour on Yakushima / 4 技能テスト② Test 2 ・ワークシートを用いた速読及び音読練習・ディクテーション、リプロダクション、意見交換及び発表
二学期	中間	Lesson 5 Bailey the Facility Dog / 4 技能テスト③ Test 3、4 ・ワークシートを用いた速読及び音読練習・ディクテーション、リプロダクション、意見交換及び発表
	期末	Lesson 7 Dear World: Bana's War / 4 技能テスト④ Test 5 ・ワークシートを用いた速読及び音読練習・ディクテーション、リプロダクション、意見交換及び発表
三学期	学年末	Lesson 8 The Best Education to Everyone、Everywhere / 4 技能テスト⑤ Test 6、7 ・ワークシートを用いた速読及び音読練習・ディクテーション、リプロダクション、意見交換及び発表

論理・表現 I (2022 年度)

単位数	3 単位 (English Speaker の教員 1+日本人教員 2)
担当	本間、早川、丹野、柳澤、リカ
教科書	Harmony I (いっずな書店)
対象生徒	高校 1 年

1. 授業の目標

- ・外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらをつなげた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。
- ・5 領域のなかの特に 3 領域、「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」「書くこと」において、発信力の強化をはかる。

2. 副教材・参考書

総合英語 FACTBOOK(桐原書店)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・英語で自分の事を表現する楽しさを感じながら勉強すること。
- ・中学までの既習事項の整理・定着をさせるために授業後の復習を大切にする。
- ・英語を話したり、書いたりするアウトプット活動が授業では多いので、間違いを恐れずに積極的に参加すること。

4. 宿題・課題・再試について

- ・文法項目を学んだあと、反復練習と確認のための課題を出す。また、スピーキングやライティング能力を伸ばす為、発表する機会もある。
- ・必要に応じてプリントを配布する場合がある。
- ・定期試験の結果が 30 点未満の場合は再試を受験しなければならない。合格点は 70 点以上とする。

5. 評価の基準について

- ・授業内試験の点数から 10 段階で評価する。課題の提出物、授業内小テスト、授業発表も評価内に含む。パフォーマンス評価はリカ先生の授業評価を 50 パーセント、日本人の授業内容、試験内容を 50 パーセントとする。定期試験は毎回行う。定期試験には応用問題も含まれる。(約 20%)
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	基本問題(定期試験)	応用問題(定期試験)	パフォーマンス(提出物・小テスト等)
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

- ・授業計画は予定である。適宜、既習範囲の復習は内容が変わる場合がある。

授業計画		
学期	試験	授業内容 (教材)
一学期	中間	日本人 : Introduction 「やりとり」「書く」「発表」のためのウォーミングアップ Lesson 1、 あいづち Lesson 2 主観と客観の区別 外国人 : Introduce yourself to ALT in 1min+Writing test、 Show and Tell: Tell me about your friend.
	期末	日本人 : Lesson 3、 疑問詞を使ってたずねる Lesson 4 会話のきっかけをつくる 外国人 : Present a place to visit to 前課の旅行に関して経験を問う。
二学期	中間	日本人 : Lesson 5 謝罪の表現、 Lesson 6 具合や調子をたずねる Lesson 7 聞き返す 外国人 : Short Skit レストランでの会話を組み立て披露する ポスターを制作しその国についてプレゼンを行う。文のつながりを考えながら発表する。(夏休み課題)
	期末	日本人 : Lesson 8 励ます、 Lesson 9 理由を尋ねる、 Lesson 10 未知のものについてたずねる 外国人 : Thank You Card の趣旨を英語で説明する Out of the hat : 帽子の中からトピックを引き、それについてどう考えるのか、裏付けも含め話す
三学期	学年末	日本人 : Lesson 11 依頼やお願いを受け入れる Lesson 12 感情を表す表現、 Lesson 13 同情・共感の表現 外国人 : 英検二次試験の類似問題、 図表を見て説明する等。問題を指摘し、説明する。 比較して具体的に描写する

情報 I (2022 年度)

単位数	2 単位
担当	関、小川
教科書	最新情報 I (実教出版)
対象生徒	高校 1 年

1. 授業の目標

- ・効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深める。
- ・社会、産業、生活、自然等さまざまな事象を情報とその結び付けとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
- ・情報社会に主体的に参画する態度を養う。

2. 副教材・参考書

最新情報 I 学習ノート(実教出版)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・基本的なコンピュータ操作を自らできるようにする。
- ・正解を聞いて動くのではなく、正解を求めトライし、エラーであれば改善するプロセスを身に付ける。

4. 宿題・課題・再試について

- ・再試験対象者は課題を実施する。
- ・期末試験と作品、毎授業で実施する課題提出にて成績を評価する。

5. 評価の基準について

各学期、期末試験と実習作品、毎授業で実施する課題提出にて成績を評価する。

	基本問題(定期試験)	応用問題(定期試験・実習)	パフォーマンス(実習・成果物等)
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	座学での学習を実習に活かし高いレベルで技術を習得している。	実習に意欲的に取り組み、課題の質が高い作製ができる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。実習の技術を習得し、適切な判断をして、成果物を作成できている。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

授業計画は予定であり、授業が早く進む場合がある。早く終わった場合は既習範囲の復習を行う。

授業計画		
学期	試験	授業内容(教材)
一学期	期末	<座学単元> 5章：問題解決とその方法 1章：情報社会と私たち <<実技単元>> 2章：情報デザイン
二学期	期末	<座学単元> 3章：システムとデジタル化 <<実技単元>> 2章：情報デザイン 6章：アルゴリズムとプログラミング
三学期	学年末	<座学単元> 4章：ネットワークとセキュリティ 5章：問題解決とその方法 <<実技単元>> 5章2節：データの活用 3節：モデル化とシミュレーション

ライフデザイン(2022年度)

単位数	1単位
担当	学年教員全員
教科書	なし
対象生徒	高校1年

1. 授業の目標

人生のターニングポイントで、自分の満足し得る選択肢を見出すことが出来る力＝「人生を切り拓く力」を身に付ける。5つの分野（コミュニケーションスキル・キャリアプラン・マネープラン・ウィメンズライフ・ジェンダー）の活動を行う。

2. 副教材・参考書

『アンガーマネジメント Vol.1』(一般社団法人アンガーマネジメントジャパン)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ①グループワーク（協働型学習）が、中心になるため、他の人の話をよく聞き、協力する姿勢を大切にする。
- ②自分の考えをまとめて発表する活動では、人に伝わるように留意する。
- ③提出物は完成した状態で、期限を守って必ず提出する。

4. 宿題・課題・再試について

各活動で課題が必ず出される。

5. 評価の基準について

発表及び提出課題で評価をつける。各学期は5段階で評価し、学年末には「総合的な探究の時間」として Komajo Quest と総合して A・B・C の3段階の評価をつける。

6. その他

授業計画は予定であり、変更することがある。

授業計画	
学期	授業内容(教材)
一学期	LD 入門 マネー キャリアプラン 話し合いを学ぶ マネーゲーム 社会人インタビュー
二学期	ウィメンズライフ マネープラン ウィメンズライフ コミュニケーションスキル 月経座談会 付加価値について考える 誕生学ワークショップ アンガーマネジメントアンガーマネジメント Vol 1
三学期	ジェンダー ジェンダーギャップ セクシャリティ 児童婚・児童労働

Komajo Quest (2022 年度)

単位数	1 単位
担当	学年教員全員
教科書	なし
対象生徒	高校 1 年

1. 授業の目標

プロジェクトを進め、将来生きていく上で必要な力を身につける。

「思考力や判断力、表現力」「さまざまな人々と協働して学ぶ態度」などの、新しい大学入試や社会で必要な力が自然に身につけていく。

2. 副教材・参考書

なし

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

①グループワーク（協働型学習）が、中心になるため、他の人の話をよく聞き、協力する姿勢を大切にする。

②自分の考えをまとめて発表する活動では、人に伝わるように留意する。

③提出物は完成した状態で、期限を守って必ず提出する。

4. 宿題・課題・再試について

各活動で課題が必ず出される。

5. 評価の基準について

発表及び提出課題で評価をつける。各学期は 5 段階で評価し、学年末には「総合的な探究の時間」としてライフデザインと総合して A・B・C の 3 段階の評価をつける。

6. その他

授業計画は予定であり、変更することがある。

授業計画	
学期	授業内容（教材）
一学期	Komajo Project Love Books Project Universal Human Project
二学期	Movie Project My Favorite Project
三学期	Komajo Project